ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行２０１１年１２月１日
１２月号　第１１９号
奈良・人と自然の会
会長　阿部和生

＊　リレー随筆「お元気ですか」　1
＊　被災地を訪ねました　2
＊　育英小校庭観察会・「曽爾高原」（オプション行事）　3
＊　ならやま＜レポート・佐保自然の森植樹祭報道記事・自然観察＞　5～8
＊　癒しの散歩道・自然俳句　8
＊　昆虫講座⑭・自然料理・「～ありがたい！」・とりシリーズ　10～12
＊　12・1月の行事案内：「12月例会・忘年会」・「新春講演会」　13
＊　今月の表紙・ペン画によせて　15

リレー随筆　お元気ですか！

「楽しないことはしたない・・・」

大澤　教男

毎日々、楽しいことだけしたい、そんな贅沢なことユウたってアカン・・・・ほな、楽しいことを仰山見つけて、仰山知っとったら楽しいことが仰山できるやろか。

山仕事はビフォー・アフターが眼で見えるから気持ちが良くなって、楽しいし、イベントでは自然遊びの工作で、できたときの子供のニヤっとした顔を見たときはこっちもホンマに嬉しなって、楽しなる。この前は障害を持つお客さんが喜んでくれてホンマに嬉しかった。

旅行、飲み食い、スポーツも楽しいからやろな、ボランティアも楽しなかったらせんほがエエ。

今、嫁さんがカマキリに蜂蜜をやってます、カマキリが馴れるものかどうか知らんけど結構楽しそうにやってます。カマキリの餌のバッタ捕り、バッタの餌の草採りも結構楽しい。

要は、気の持ち様で何でも楽しなるんやろけど・・・。楽しいことがしたかったら、やることを何でも楽しむことやな、凡人以下の自分にできるかな・・・

悩まんと楽しも。

こつこつ琵琶湖一周 230 km

日帰りウォーキング

市川　博之

皆さま、ご無沙汰しております。突然ですが、最近歩いてますか??

ここ数年、朝夕の気が向いた時のみではありますが、近所をウォーキングしております。ウォーキングしていると、ちょっとした気候や景色の変化など会社生活で意識していなかった驚きや癒しを感じております。

このウォーキングにさらに目標を持ちたいと考え、「こつこつ琵琶湖岸一周」を掲げ、先日達成しました。瀬田の唐橋からスタートし、自分の気の向くままにウォーキングしたため、終わってみれば約2年（12回）という亀の如くゆっくりしたペースでしだが…。

湖岸はサイクリングロードとして整備されており、春は桜、夏はウィンドサーフィン・ハングライダー、秋は紅葉、北部の山中では、猿の群れとの遭遇など、四季折々の景色や思わぬ出会いを楽しむことができます。

皆さん、一度ご挑戦されてはいかがでしょうか？但し、一点ご注意が！湖北部と東岸は、JR線から遠くバスの運行も少ないので、ご計画の際はお気をつけください。

被災地を訪ねました

9月、私は主に海岸沿いの被災地を回った。

山元町　最初に行った山元町の海岸沿い一体は何もかもが白く見え、異様な世界だった。津波で壊された家は既に撤去され、荒れ野に何軒かの二階家とコンクリートの土台がまばらに点在している。海岸沿いに続く防風林は根こそぎ同一方向に倒れている。茶色になった沢山の松の中に、しかし、ところどころに倒れずに頑張った松が緑の葉をつけている。

中浜小学校は津波が来るまでは太平洋の青い海に白いモダンな校舎が映えて、広々とした美しい学校だったことが偲ばれる。すでに中は片付けられていたが、体育館にはなんと二階の窓を突き破ってかなり大きな松の木が根ごと突っ込んでいる――というより中に生えていた松の木が2階の窓から逃げだそうとし、枝の部分がやっと外に出られたが長く大きな幹と根は抜け出せずに息絶えたという感じ。その時までここでは生徒達が走り回り卒業式の練習をしていたのだろう。

石巻　石巻の日和山公園から見る海岸方面は、一体以前はどんな街だったのか想像することも難しい。公園の手すりには「救援ありがとう」の横断幕がさげられていた。

海岸近くの市立病院では地盤沈下のため処方薬局や幾つかの建物が完全に海につかり、道路と海の落差が非常に小さい。海の中の建物の陰や瓦礫の山にまだ遺体があるように思えて胸が痛む。

近くの門脇中学校の校舎の中は重油火災で真っ黒になっている。

地盤沈下　地盤沈下の被害は本当に深刻だ。気仙沼でも陸前高田、大船渡でも港も道路もほとんど海面と同じ高さだ。広大な魚市場も冷蔵設備も何もかもが傾き崩れ・・・それらは今にも海水に洗われそうなのだ。海の中には赤い布をつけた棒が立ててある。"ここに何かがある"という印。重油で2晩燃え続けた三陸の海は気のせいか黒ずんで海底には船が黒く横たわって沈んでいるようだ。

希望の象徴の陸前高田の一本松は緑色の保護用の腹巻をしていたが、しかし、葉も茶色になっていた。

この凄まじい様をどう言ったらいいのだろう。カーブを過ぎると、あるはずの街がないのだ。大きな漁船が山の麓で行く手を阻まれて立っているのだ。

放射能汚染　私は仙台の市会議員のO氏を通じて被災地の支援を続けているが、今回はO氏から特に放射能汚染に関する話を聞いた。農産物の被害は深刻で正に死活問題。県や市は絶対に汚染しているものを県外に出さないという体制を取り、生産者は出来るだけ作物は温室やビニールハウスで育て、それ以外は土をはがし出荷前には水洗いをする。それでも汚染があれば廃棄する。生産者がどんなに必死で放射能に立ち向かっているかを話すO氏は、時折怒りに声を震わせる。宮城県にも電源が喪失したが爆発寸前まで奇跡的に助かった女川原発があるのだ。

幼稚園で　後日、福島県郡山市の幼稚園の園長先生からFaxが届いた。そこには幼稚園児の生活の様子が書かれていた。この幼稚園は放射線量の高いところにあり、全く子ども達を外で遊ばすことは出来なかったが、園庭の土をはがしたり木を切ったりした結果、ようやく線量計で図って0.5msv以下の日は20分ぐらい外で遊ばせられるようになったという。

こんなことで子ども達は心身共に健康に成長するのだろうか。

我々は本当にとんでもないものを作ってしまったと悔やまれる。

旅で　つくづく原発はやめなければいけないと思う。経済が悪くなろうが停電になろうが、そんな理由で子ども達に原発のリスクを背負わせる権利は、私たちにはない。

想像を絶する津波も、地震も乗り越えられるだろう。しかし、ひとたび爆発した福島の原発を誰もどうすることも出来ない。

いつの日にか人が原発をコントロールすることが出来たとしても、そうなるためにはあまりにも大きな犠牲を払わなければならない。原発にそれほどの犠牲を払う価値があるのだろうか。私たちは再生可能なエネルギーで経済活動をし、生活するだけの知恵も力も持ち合わせていないのだろうか。

この旅はそのことを改めて心の底から考えさせられるものだった。

(木村宥子)

自然教室チーム活動報告

育英小学校　秋の校庭観察会

平岡久美

11月8日（火）育英小学校の2年生を対象に「校庭の秋と遊ぼう！」のテーマで校庭観察会を実施しました。この日のスタッフは6名です。

校舎に入ると、「こんにちは。よろしくお願いします。」と挨拶をされびっくり。

「あなたは2年生ですか。」

と尋ねると、

「はい、そうです。」

との返事。私たちの来るのを待っていてくれたようで嬉しくなりました。

今回のテーマを決めるにあたって、担任の先生から、

① 自然の遊びを覚えて、自分たちで遊びを工夫する力を育てたい。

② 2年生が、1年生を楽しませるフェステバルに活かしたい。

との思いを聞いていましたので、いろいろな遊びを取り入れた内容としました。

クロガネモチの葉っぱで葉巻笛に挑戦し、カエデのプロペラを飛ばして楽しみました。ドングリのポイントでは、ドングリクイズとドングリゴマの遊びに加えて、マテバシイを食べる体験をいれました。はじめての子がほとんどで、大変印象に残ったようです。ひっつきむしのいろいろを観察したあとはオナモミダーツを楽しみ、桜の葉っぱの葉脈を写し取り、ミラーウォークを体験。なんどもぐるぐる回って不思議体験を楽しんでいました。

観察会のあとは、クヌギの殻斗を使った、「クマのペンダント」を作り、出来上がった作品を手に、にっこり笑顔が印象的でした。

観察会のあと、子どもたちからたくさんの質問がでました。この観察会によって、新たな興味を広げていることを感じました。

この日の日記は、すべての児童がこの観察会のことを書いたと、先生から知らせていただきました。しっかり楽しんでもらえたようです　。

創立１０周年記念　オプション行事

11月12日（土）　『曽爾高原ハイキング』

報告　羽尻　嵩

参加者　16名（順不同）　境、木村〔企画案内担当〕、田中、勝田、谷川、弓場夫妻、高本、西谷、川井、村上、守口、古川、豊島、石井　＆羽尻

爽やかな秋晴れの朝。近鉄名張駅では、案内役の境さんと木村さんが旗を持って待っておられた。バス待ちは長蛇の列。シニアの人たちに交じって若い山ガールの姿も目に付く。臨時バス２台の増便で出発。

横に流れる青蓮寺川に目をやる。澄んだ流れだ。“清き明き心”。

やがてバスは曽爾高原の登山口に着く。わがグループの参加者は意外に少ないなと思っていると、聞きなれた声。振り向くとタクシーから古川さんと守口さんが降りてこられた。なんと、電車で居眠りして天理駅まで行ってしまったとのこと。居眠代は高くついたらしい。

私はこの高原に来るのは初めてである。秋になると、ススキ野原の写真を見て、何度となしに行こうと思ってきたのだが･･･。

西には、曽爾の集落の背後に、屏風岩・楯丘山・兜岳・鎧岳が連なって見える。

少し道を上り、南に目をやると、小高い丘に囲まれて広い野原が見えてきた。これが曽爾高原か。1700万年前ここは海の底であったという。今は、銀色にきらめき一面のススキが広がる。

ススキ野原の中にお亀池がある。湿原植物を探しながらそこを一周。「水が少ないな。ススキの背丈が低くなってしまったのは、池の水が減ったからかな。」と誰かが言う。以前は背丈を超えるほどのススキをかき分けて歩いたという。後で村の人に聞くと、萩などがはびこってススキの成長を弱めているとのことだ。カヤの需要が減ったことなどによる人手不足で手入れが行き届かないらしい。人間にとっていい景観を保つには人による山里の管理が欠かせないのだ。

亀山峠で昼食をとる。丘の急斜面を登ってきて汗をかいた肌に秋風が気持ちいい。あらためて、眼下を見ると広々とすり鉢状に平地を山々が取り囲み、大パノラマが広がっている。地理に詳しい弓場さんの説明を聞く。この峠の横の小高いところが二本ボソと倶留尊山、さらにその向こうに遠くにかすんで見えるのが青山高原で、白く見えるのは発電の風車だということである。

帰りのバス停の前の「丸八屋」という酒屋の主人は気さくな方で、ここの「太郎生(たろうお)」の地名の由来は南北朝時代の人物名にあることやカヤ葺きの屋根が減って瓦屋根が増え、建物の構造上問題が出てきたことなどいろいろ話しをしてくださった。

好天に恵まれた秋の一日、満ち足りた気分で帰路についた。

“ススキの穂　山ギャル添えて　曽爾に映え”

ならやまプロジェクト・レポート　23年11月

１０月２５日（火）曇り＜臨時＞参加者 22+17 名

午後、佐保台小学校５年生 14 名の稲刈りと稲掛の実習が行われた。予定以上に稲刈りがはかどり、児童達の勢いに圧倒された。

１０月２７日（木）晴　参加者 43+2 名

会員による稲刈り、蕎麦刈取りとハサ掛け。植樹祭に備え、ポット（100 個）用の竹の伐採、玉切り。彩りの森の植樹工事開始。ビオトープの新たな池の掘削等　多忙な一日でした。

１１月３日（木）曇　参加者 40+50 名

雨で延期の公開芋ほり大会を実施。児童 18、幼児 9、保護者 20、世話役 2、佐保台小学校教頭　計 50 名の参加で賑わった。お昼のおやつに焼き芋！

その他、蕎麦の脱穀、玉葱 2,000 本の植付や 30 区画に薪小屋建設等、ベースキャンプの駐車場入口の枯れた杉の伐採を行った。

１１月４日（金）晴　＜臨時＞　参加者 12+16 名

佐保台小学校　稲作実習「脱穀と籾摺り」５年生 14 名と担任他 16 名が参加。

１１月８日（火）晴　＜臨時＞　参加者 7+3 名

水生生物科の定期調査、シニア自然大学から 3 名来訪。

１１月１０日（木）曇り　参加者　42+23 名

植樹祭に備え、佐保自然の森の整備を全員で行なう。一方で佐保台幼稚園リース作り、自然工作と里山遊びを実施。　園児 10、保護者 10、園長、先生 2　計 23 名が参加し、ならやまの秋を楽しんだ。

１１月１７日（木）晴　参加者　41+5 名

全員で「佐保自然の森」植樹祭の準備を行う。パンフレット等の封筒詰め、クヌギのどんぐりをコロコロポットに植付、引き続きテントの設営や什器等の準備を行った。県景観課から坂野係長他３名参加。

１１月１９日（土）雨　参加者　44+40 名

１０時から来賓 25 名、地域住民 8 名を迎えて「佐保自然の森」の植樹祭が執り行われました。

豊かな生態系の育成と地域に親しまれる森づくりを願って、エゴノキ、イロハモミジ、ヤマボウシ、シデザクラ、ヤマザクラ、ヒメコブシ、ヤクシマオナガカエデ等　計 47 本が植樹されました。（藤田　記）

【行事報告】

(1) 11月3日 **「芋ほりと自然工作」**・・・・・芋ほり－豚汁－自然工作

3度目の正直で、ようやくにして開催することが出来ました。このイベントは地元の佐保台小学校放課後子ども教室より毎年依頼を受けているものです。当日は子供18人、幼児9人、大人(教頭、コーディネーター含む)23人で計50人、当会より40人が参加してくれました。

10時受付、代表挨拶、オリエンテーションに続いて、イモのつる切り、つる運び後芋ほりをはじめました。班ごとに見事な芋を前にして記念撮影。その後虫取りに熱中し昆虫博士に名前を教えてもらっていました。昼食にはすっかりおなじみになった豚汁。家族と一緒に自然の中で食べるのが一番おいしいとの事でした。

自然工作では、自分で竹を切りコップや鉛筆立て作りに一生懸命でした。心配していた親たちもわが子の鋸運びにすっかり満足の態でした。ころころポットに焼き印を入れてもらい、堆肥と土を入れ、ドングリを寝かせて植えつけました。サツマイモとポットを持ちそれぞれ嬉しそうに帰っていきました。3時前無事終了。

子どもや親たちから大好評の感想をもらい、会員の皆さんにはメール配信をして頂きました。 一番ホッとしたのがイベント担当でした。

＜オリエンテーション中＞

＜わたし竹切に夢中＞

(2) 11月10日 佐保台幼稚園 **「秋の里山遊び」**・・・リースつくり－豚汁－山歩き

この幼稚園は来年3月末をもって廃園予定になっています。2年前当会が実施した「秋のデイキャンプ」が大好評であったことから、今回も楽しい思い出つくりにして欲しいと強い要請があり企画したものです。

園児10人、幼児2人、保護者10人、園長、先生3人の計25人に、当会より42人が参加しました。
9:45全員集合、代表挨拶、オリエンテーション後リースづくり。しばらくすると園児は飽きてウロウロするも、会員指導の紙飛行機遊びにはまり、親は子を忘れてリースづくりに没頭。

昼食には待望の豚汁。具沢山でも園児は一生懸命食べる。親もつられて食べる。山組の分残るかな。昼食後は山歩き。園児には楽しい遊びを、親たちにはウーンとうなる見事な説明。さすが当会のガイドさんたち。お土産はころころポット、ドングリゴマ、ドングリ人形の3点セットを喜んで持ち帰って頂きました。13:30終了。

翌日には多くの園児がドングリ人形をつけて登園したとの事でした。後で親、先生に聞くと大好評だったので、思わず「来年もやりましょう！」と声を掛け、ハッと閉園に気付き思わず苦笑いのイベント担当でした。

＜興味は紙飛行機飛ばし＞

＜どうですこの出来栄え＞

(行事担当：塩本)

速 報

「佐保自然の森第１回植樹祭」　奈良新聞に大きく報道！！

奈 良 新 聞　2011.11.20　（第３種郵便物認可）

里山再生 一歩ずつ

荒廃越え住民ら植樹

奈良「佐保自然の森」

奈良市法蓮町の「佐保自然の森」で19日、県や奈良市、自治会や地元住民らによる第1回植樹祭が行われた。大粒の雨が降り続く荒天にもかかわらず、関係者ら50人が出席。森の再生に期待を込め、丹念に植樹を行った。

森の再生を目指し行われた植樹＝19日、奈良市法蓮町の「佐保自然の森」

遊歩道整備に続き

一帯は歴史的風土特別保存地区（平城宮跡地区）に指定されており、かつて荒廃していた土地約2㌶を、平成18年度、古都保存法に基づき県が買い上げた。地元の市民団体「奈良・人と自然の会」（阿部和生会長、約130人）が管理。うち1㌶の土地に昨年度、遊歩道などが整備されたのに続き、植樹が行われることになった。

用意されたのは、県のほか、瀬戸内オリーブ基金なども使って地元がそろえた山桜やイロハモミジ、エゴノキなど計47本。植樹に先立ち、阿部会長が「この地域は里山の風情を取り戻しつつある。『佐保自然の森』へ名実ともにきょうがスタート。豊かな生態系が形成され、住民がくつろぎ、体験学習や自然学習ができるようになれば」と期待。山菅善宣県風致景観課長も「かつて足を踏み入れられないようだった土地が、歴史的風土保存地区にふさわしい場所になってきた」と地元の協力に感謝の意を表した。

ならやま里山林自然観察レポート

＊ならやま里山林花だより＊

吉村　さつき

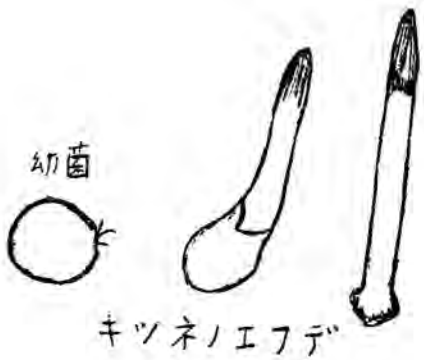
実をたわわに付けたならやまの柿の木の美しい姿に見とれてしまいます。
会員さんが実を持ち帰り干し柿にして、皆のおやつになります。
おやおや土の中からウズラ卵ぐらいの大きさで、白色のマシュマロの様なものが出てきました。キツネノエフデの幼菌だそうです。成長すると傘はなく、柄の上部がツノ状に細まって朱紅色になり、下半部は淡紅色から白色になります。根元には袋状のつぼを持ちます。やがて黒褐色の悪臭のあるグレバ（胞子液）がつきます。
キツネノロウソク、キツネノタイマツとよく似ています。

草花＊キンエノコロ、アキノキリンソウ、
　　アメリカセンダングサ、キツネノマゴ、
　　セイタカアワダチソウ

花壇＊ヒメツルソバ、皇帝ダリア

木の花＊コウヤボウキ、チャノキ

木の実＊ヤブコウジ、カマツカ、コマユミ、
　　マユミ、イヌツゲ、ヒサカキ、ヤツデ、



＊ならやま鳥だより＊

小田　久美子

11 月 14 日。種類は 5 種と少ない数ですが、数は 56 羽と多かったです。

＜癒しの散歩道＞

旅愁のロマンの匂い漂い

谷川　萬太郎

ある晴れた秋の空にふんわり浮ぶ
過ぎしあの日あの時の懐かしさよ
秋風が吹き貴女を想い眺めた浜菊
この飾らない豊かな自然の優美さを
あの頃の想い出をそっと繋ぎあわせ
忘れ得ぬありし日の面影にゆれる心

赤い風船が明日の夢をのせてほのぼのと
心の中を静かによぎり仄かに移り香漂う
ススキに抱かれし秋色の深き山々眩しく
けなげな優しさ秘めた貴女に贈りたくて
作った秋の銀色の色紙が嬉し涙ににじむ
偲べど熱き胸に情通う人に会えるだろか

自然俳句欄

佐保台小の子供たち 。赤米田の稲刈りに心躍る。
秋たけなわの里山の一日。

昂ぶりの鎌を持つ子ら稲穂刈る　鈴木　未一

さながらに稲田飛ぶ虫運動会　鈴木　未一

稲刈るや匂ひは畝の向こうまで　鈴木　未一

蕎麦の実引く背ナより風の野となりぬ　川井　秀夫

ソバくらぶの皆さん。待望の収穫、脱穀に力が入る。
空稲架に野の風が吹き秋が深まる。

曽爾原の傾きにある尾花かな　川井　秀夫

快晴の尾花ぶたれた後のよう　川井　秀夫

久しぶりの曽爾高原。心なしか芒原に往年の元気がない。
竜胆・桔梗など秋の草花も乏しく、生態系の変化が心配。

【悼　句】

六甲へ友ひとり消ゆ秋深深

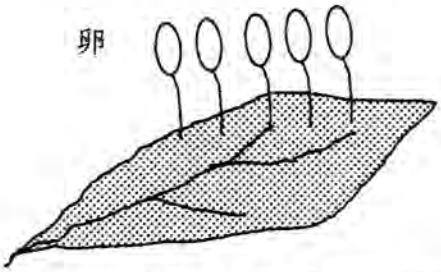
三木　正明 氏。当会 元幹事。現 「ならなき」代表。
9•26日 六甲山に入山。行方不明。11•3日 遺体確認。
斗酒なほ辞せず。良い飲み仲間だった。今はただご冥福を祈る。合掌。

川井

うどんげ(優曇華)の花！

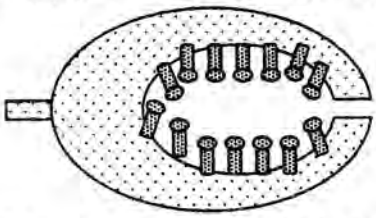
—やさしい昆虫講座（第 14 話）—　　木村　裕

先日、活動日に会員さんが珍しい物を見せてあげようと持ってこられたのが「うどんげ（優曇華）の花」です。葉っぱの上に白い柄のある卵が並んでいました。花とはいうもののこれはクサカゲロウと言う昆虫の卵です。



成虫はトンボのように透明な羽根を持ち、羽の脈と胴体が緑色です。羽根を広げても 3 cm 程度で、ひ弱なトンボといったところです。幼虫はアブラムシを主食とするので、餌となるアブラムシ集団の中に産卵するのが本筋ですが、お産が近付いているにも関わらず病院にも行かず夜遊びにふけり、灯りの回りを飛び回っている暢気坊主がいます。産気づくとあわてて手近の壁や電気の傘などに産卵します。人間社会にも同じような人がいますね。

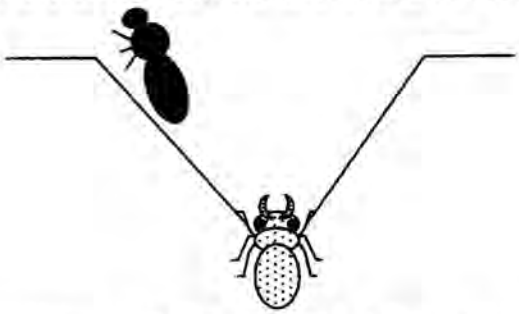
本来の優曇華の花は、インドの想像上の花で三千年に一度しか花が咲きませんが、この花が咲くと非常に良いことが起こるといわれています。クワ科のイチジク属の花であるため、花は内部にあって外部から見えないことから三千年に一度となったようです。ちょっと脱線しますが、みなさんイチジクの花をご存知ですか？　ほとんどの方は、イチジクの



実は知っていても花は見られたことはないと思います。花は小さな果実の中で咲きます。果実が肥大する途中の段階で先端の孔がいっとき開き、受粉するとすぐに閉じます。この刹那的な時期に花をねらってやってくる小さな虫がおり、この虫が侵入すると内部が黒く変色するので、ときどき市場でのクレームの原因ともなっています。

私たちも優曇華の花を見つけて良いことのおすそ分けにありつきたいものです。

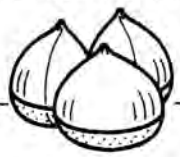
このクサカゲロウの親戚がウスバカゲロウです。幼虫はアリ地獄といわれ、お寺の縁先下の地面にロート状の穴を掘り、その底に潜んでいます。アリが孔の縁を通りかかると下から砂を放り投げて穴の中へ引きずりこみます。軒下や大きな樹の下で雨のあたらない乾燥した土が大好きです。最近数は減ってはいますが、まだまだあちらこちらで見られます。



カゲロウと名がつく虫には「あしたに生まれ夕べに死す」と言われるようにいたって短命のカゲロウ類がいます。この虫はクサカゲロウとはまったく異なるグループで、いたって原始的な虫ですが、由緒正しいカゲロウです。成虫は透明な羽根を持っていますが、非常にひ弱な虫で、4～5 月に一斉に飛び出します。幼虫は渓流、河川、湖沼などに住んでいて魚の餌となって役立っています。我がならやまのビオトープ池にもフタバカゲロウが住み着いていて、冬でも水の中を泳いでいます。

自然をちょっぴり　いただきま～す　西谷範子

１２月、野山のハイキングに出かけると、林の下草の中に丸い葉の蔓が地面いっぱいに這いまわり、その中に宝石のようなつややかなつぶつぶいちごが見られます。
冬のハイキングのごちそう、待望のフユイチゴです。
緑のつややかな葉とぴかぴか光るつぶいちごの配色が花の少ない野を彩ります。
ガクから実だけ摘み取って食べると、プチプチした感触の実と種がその可愛らしさに似合った甘さで舌の先にころがります。
木いちごの仲間は一年中いろいろありますが、季節の最後を務めるいちごでもちろんバラ科ですが、花は秋に咲くのですが花弁が１cmにも満たないのと、ガクも同じ長さになるのであまり目立ちません。
そのまま食べるのが一番ですが、持ち帰れたらケーキの飾りにしたりジャムにするほか、ヨーグルトの上にのせて混ぜて食べるのがきれいで姿をこわさないで幸せ感を味わえます。
採る時、トゲのあるのがあるから気をつけて。



「～ありがたい！！」

竹本　雅昭

長靴：なんや、ポチャポチャと飛び込んで。今頃泳ぎの練習か？風邪ひくで。

イナゴ：なんも好き好んで泥水に入れへんわ、あんたのそのスパイク付きが恐ろしいけんね。

長靴：びっくりさせて悪かった許せ。しゃあけど、なんでこんな草むらにおるんや？稲の方がええんと違うの。

イナゴ：できればそうしたいんやけどね、係のおじさん曰くに“今年はより多く収穫できそうや”と見ておられるので、私等がいたらギョロリと睨まれ途端に足が竦んでしまうわ。

長靴：成るほど、小学生も期待してるやろし協力せなあきまへんな。子供達には作物の命を頂いそうそう情報を一つ。この泥池に希少価値の小魚を入れるようや、気をつけんとその柔らかい腹をパクッとやられるかもね。

イナゴ：そんな怖い事言わんといて、これからステキな彼氏見つけて子孫を残さんならん身やのに。

池：黙って聞いてりゃ、いかにも汚いかのように言うてるけどな、自然の状態で水生動物にはとても大切な場で、誇りに思っとるんやで。

長靴：そうやてね、えらい悪い表現でごめん。これからも長いお付き合いや、お互いに頑張りましょう。

とりシリーズ

「ぶらタモリ」から

小田　久美子

「ぶらタモリ」をご覧になったことありますか。思いがけない東京・お江戸に出会える面白い番組です。

先日「お江戸の動物Ⅱ」を見ました。江戸時代は庶民文化も爛熟期を迎え、江戸後期はお洒落をして鳥を見ながらお茶するのが流行ったそうです。今の「ドッグ・カフェ」「ネコ・カフェ」のような物があったとは驚きですね。　遡って、五代将軍綱吉の時代には悪名高き「生類哀れみの令」が発せられました。生きとし生けるものを殺生してはならないと、総数 200 以上が続々発せられたそうです。その中には「キリギリス」「タマムシ」「マツムシ」「コオロギ」など虫を飼うことも禁止されました。飼うのは虐待だというのです。そんなに生き物たちを保護したのに、なんとカラス・トビ・ウはその対象から外され駆除されたとのことです。カラスは小鳥をいじめるとの理由ですが、トビはスカベンジャーとしての認識は無かったのでしょうか、いつか私が「トビ」を書いたのをもう一度ご覧になったら、かつて別の価値観のトビがいたことも思い出して頂けると思います。そして、ウ、かれらの糞はリンを採る為にとても大切だった筈なのですが。

ちいきじょうほう

★11/16、我が家付近の真上 10 ㍍をゆっくり旋回、**オオタカ**成鳥の羽根が目視出来ました。
我が家の**ジョー君** 11/13、**ツグミ**は 11/17 が初認でした。今年は冬鳥の飛来が遅いようですが、皆さんの付近では如何でしたか。（小田）

★（斑鳩）10/23 **ジョウビタキ** 11/2 **マガモ**、**コガモ**　11/18　**ツグミ** 11/19 **ヒドリガモ**初認。
（三郷町若草橋下　今年の飛来数 100 羽位で昨年約 200 羽）

・毎年信貴山の大門池に**オシドリ**を見に行きます。１６日今年は？と大門池の橋の上からのぞくと・・・「な・な・なんと」大門池は水が空っぽでした。下の方で大規模な大門ダムを造っているため、水をぬいてしまっていました。今年はオシドリはどこへ？いろいろ考えて三郷町の焼却場の近くの池に行ってみました。神秘的な感じのするいい池なんですが、カルガモしか見えませんでした。でも、よおく見るとオシドリがいるではありませんか！！１０羽数えました（雄７雌３）ほっとしました。

・20 日竜田川から大和側に出るといつもならコガモ、カルガモ、マガモたちが泳いでいるのですが、今朝はカワウ 130 羽位が川を埋め尽くし、その周りの岸にダイサギがぐるーっと取り囲んで、カワウの追い回した小魚をちょうだいしていました。（勝田）

行　事　案　内

※原則：前日午後7時前のNHK天気予報で、降水確率（午前）60%以上の場合は中止

※当会の行事における傷害事故等については個人負担とし、当会は賠償等一切の責任は負いません

『ならやま里山林プロジェクト１２月・１月の予定』

場所：　奈良市奈良阪町・佐紀町の県有林（JR平城山駅下車徒歩１０分）
—「ならやま会館」前の道路（ならやま大通り）の南側に広がる林地—

12月の活動日	１月の活動日
１日（木）	５日（木）初出（新春餅つき大会）
８日（木）	１２日（木）
１５日（木）（ならやま芋煮会）	１９日（木）
１７日（土）（実習生受け入れ）	２６日（木）
２２日（木）	３１日（火）（雨天予備日）
２６日（月）迎春準備（葉牡丹、角松作り）	＜参考＞ １月から教育実習生受入れは、活動日（木曜日）に行い、第３土曜日の設定はいたしません。

集合：　現地ベースキャンプ地　９時　　終了予定　１５時

交通：　①近鉄奈良駅　　バス１３乗場８：２３発　高の原行　（平日・土曜）
②近鉄高の原駅　バス１番乗場８：３２発　JR奈良行（平日）
８：３０発　JR奈良行（土曜）
①、②とも佐保台西口、または平城大橋で下車　徒歩約７分

携行品など：・弁当、飲み物、軍手、（作業用具は現地で用意）
＊環境保護のため、コップ・箸・椀などは各自でご持参下さい。

「彩りの森」の植樹に参加してください！

ならやまプロジェクトの「彩りの森」計画は、皆様のご協力で植樹が始まりました。
是非、ならやまに出かけ、素晴らしい里山で植樹を体験してみてください。初めての方、大歓迎です。

１．実施日：１２月１日、８日、１５日（予備日）の３日です。木曜日のならやま活動日です。
２．樹木　：ヤクシマオナガカエデ：１１０本、ヤマザクラ：２２本　　計１３２本
３．作業　：２人１組で植木置き場から植穴へ運び入れ、土掛け、水遣り、植木の保護し
２～３本を植樹します。約１時間程度の作業です。初心者でも大丈夫です。

初めてでご不安の方は、彩りの森の植樹担当：木村　裕：
塩本勝也　　まで連絡ください。

この植樹は「瀬戸内オリーブ基金」からの助成により、全会員の手で緑化に貢献するものです。

１２月例会「　**頭塔・高円山・春日山紅葉を訪ね、忘年会へ**」

1.「頭塔・高円山・春日山紅葉を訪ねる」

日　時：　１２月５日（月）９時３０分

集　合：　近鉄奈良駅前（行基菩薩像前）

2.「忘年会」－この１年を振り返って、会員相互の親睦をはかりましょう。

日　時：　12月5日(月)　16時～18時

場　所：　「奈良　万葉荘」　奈良市高畑町 1201－1　　0742－26－7933

近鉄・ＪＲ「奈良駅」から１番乗場市内循環バス「破石（わりいし）」下車すぐ。

会　費：　男性　5000円　女性　4000円

担当者：　寺田　孝　　・　勝田　均

＊前日午後７時前のＮＨＫ天気予報で降水確率（午前）６０％以上の場合は例会は中止といたしますが、忘年会は実施いたします。

「忘年会」ご参加の方は、担当者までご連絡ください。

★ならやま・バードウォッチング

☆日　　時：12月12日（月）　9:00集合

★集合場所：ならやま駐車場

☆小雨決行：判断の難しい時は担当者に問い合わせてください

★担 当 者：小田　　・菊川

＜1月の予定＞　　新春講演会　開催

日時：平成24年1月22日　　日曜日　　午後1：30～4：30

場所：奈良市中部公民館　5階ホール　会場

テーマ―：特別天然記念物　**春日山原始林の未来を考える**

―◇　森林生態系の衰退　◇―

講師：大阪産業大学大学院教授　前迫ゆり　先生

―共生と崩壊の岐路に立つ春日山照葉樹林―

講師：大阪市立大学大学院准教授　名波　哲　先生

―御蓋山ナギ林と春日原始林の自然植生の現状―

（森林を構成する個性豊かな木々達）

草食性動物のシカがこれまで食べなかったクリンソウやイズセンリョウを食べるようになっています。一方でナギ林は最近少し衰退気味とか？元気すぎる樹種と思ってましたが…。

研究者からの現状を踏まえたお話しを聞きたいと思います。

平成２３年１１月度幹事会報告

日　時；　平成２３年１１月１日(火)　17：15～　20：15

場　所：　奈良市中部公民館

出席者：　幹事１３名　顧問１名

(1) １０月末会員数　１２６名

(2) １０周年記念行事１１月１９日「佐保自然の森」植樹祭、来賓予定者２３名。

(3)「彩りの森」植樹、諸準備完了。11/24,12/1,12/8 に会員で植樹を行う。

(4) 会員用スタッフシャツ（ベスト）完成。11 月 10 日より頒布開始。

(5) ならやまＢＣで栽培したそばの会食「新そば祭り」を 11 月 24 日に開催。

(6) 12 月 5 日　本年度会忘年会。午後 4 時より奈良市高畑町「万葉荘」。

(7) 1 月 22 日 10 周年記念新春講演会は、オープン行事として一般に広報を行う。

表紙のペン画によせて

境　寛

追分梅林から矢田山遊びの森への雑木林を小春日和の中、ぶらぶらと枯れ葉を踏みしめ散策していると、葉っぱの落ちた明るい日差しが差し込んだ山道に差し掛かった。静かな初冬の中で、ほっとした光景でした。

編集後記：＊今年も早いものでもう 12 月となりました。今年も多くの行事が会員のみなさんのご協力により無事成功させることが出来ました。5 日には忘年会があります。日頃ゆっくりと話せなかった人とも膝を交え歓談できたらいいですね。多くのご参加をお待ちしています。

＊1 月号の原稿の締切は 12 月 15 日（木）と早くなっております。ご協力お願いします。

＊会報発送作業・編集会議日：1 月号の作業は１２月２３日（金）午前９時から「西奈良ボランティアセンター」で行います。毎回多くの会員の方々のご協力をいただいております。今回もよろしくお願いいたします。

編集担当：勝田　　均

TEL＆FAX：

奈良新聞　2011. 11. 20.

（第3種郵便物認可）

里山再生 一歩ずつ

奈良「佐保自然の森」

荒廃越え住民ら植樹

奈良市法蓮町の「佐保自然の森」で19日、県や奈良市、自治会や地元住民らによる第1回植樹祭が行われた。大粒の雨が降り続く荒天にもかかわらず、関係者ら50人が出席。森の再生に期待を込め、丹念に植樹を行った。

森の再生を目指し行われた植樹―19日、奈良市法蓮町の「佐保自然の森」

遊歩道整備に続き

一帯は歴史的風土特別保存地区（平城宮跡地区）に指定されており、かつて荒廃していた土地約2㌶を、平成18年度、古都保存法に基づき県が買い上げた。地元の市民団体「奈良・人と自然の会」（阿部和生会長、約130人）が管理。うち1㌶の土地に昨年度、遊歩道などが整備されたのに続き、植樹が行われることになった。

用意されたのは、県のほか、瀬戸内オリーブ基金なども使って地元がそろえた山桜やイロハモミジ、エゴノキなど計47本。植樹に先立ち、阿部会長が「この地域は里山の風情を取り戻しつつある。『佐保自然の森』へ名実ともにきょうがスタート。豊かな生態系が形成され、住民がくつろぎ、体験学習や自然学習ができるようになれば」と期待。山菅善宣県風致景観課長も「かつて足を踏み入れられないようだった土地が、歴史的風土保存地区にふさわしい場所になってきた」と地元の協力に感謝の意を表した。